

このたびは、ワイヤレスマイクをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

## 安全上のご注意

必ずお守りください

- ご使用の前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは、必ず保存してください。

## 安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

### 絵表示の例



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容(上図の場合は分解禁止)が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

## ⚠️ 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

### 分解／改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



### 航空機内では電源を切る

運航の安全に支障をきたす恐れがあります。



### 医用電気機器に近づけない

(手術室、集中治療室、CCU\*等には持ち込まない)

本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。\*CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。



### 自動ドア、火災報知器等の自動制御機器の近くで使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。



### 電池は充電・分解ショートしない

電池の破裂や液漏れにより火災、けが、やけどの原因になります。



## ⚠️ 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

### 電池は極性(プラス+とマイナス-)を正しく入れる

間違えると、電池の破裂や液漏れにより火災、けがや周囲を汚損する原因となります。



### 充電式電池は使わない

発熱、発火の原因になります。また、機器の正常な動作を保証できません。



## 上手な使いかた

### ■取り扱い上のお願い

#### 技術基準適合証明ラベルについて

本機は、電波法で規定される技術基準適合証明品です。機器一台一台にその証明番号(証明ラベル)が貼ってあります。みだりに剥がしたり損傷の無いようご使用ください。

#### 放置しないで

アンプの上や夏の閉め切った車内のような温度の高いところや、湿度の高いところには放置しないでください。

## ■取り扱い上のお願い

### 違法改造しないで

本機を分解したり、内部の部品に触ったりしないでください。改造することは法律で禁じられています。

### 取り扱いはていねいに

床に落としたり、物に当たたりしないでください。

### マイク本体に水は禁物

水に濡れた場合はすぐに電源スイッチを切り、乾いた布で拭いてください。

### 乾電池は正しく使う

使いかたを誤ると、電池の液漏れで機器が腐食したり、電池が破裂する恐れがあります。充電、ショート、分解、加熱、火の中への投入はやめてください。

### 使用後は

電源スイッチを切ってください。また、長時間(2週間以上)使用しないときは、乾電池を取り出してください。

## ■使用上のお願い

### マイクと口との距離

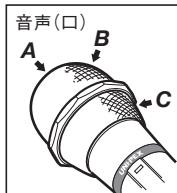
マイクは口から5~10 cm離してご使用ください。明瞭でひずみのない音を再生します。また、マイクを口に近づけると低音が強調されます。

### ハウリングについて

せまい室内でしかもスピーカーの近くで使用するとハウリングをおこすことがあります。その場合は受信機のボリュームをしぼるか、マイクの使用位置を移動してください。

### マイクの方向性

本機は、単一指向性マイクのため、**A** の方向の音声には感度がよく、**BC** の方向は **A** の方向に比べ感度が1/2~1/5になります。よい音質で感度よく使用するためには、音声(口)が前面 **A** の方向にくるようにしてください。



### 強い電波を発する機器に近づけない

携帯電話など強い電波を発する機器に近づけると、ノイズが発生します。

### 雑音が入るときは

- ・ワイヤレスアンテナに近づけてご使用ください。そのときの距離は、2~10mが適当です。ワイヤレスアンテナから2m以内に近づくと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信など受信機が誤動作することがあります。
- ・受信機やワイヤレスアンテナはデジタル機器や高周波雑音のできる機器などから、できるだけ離して設置してください。(5m以上)

### 使用電池について

- ・高性能乾電池(充電出来ないタイプ)で初期電圧値が1.65Vを越える物はお使い頂けません。製品の内部に保護回路が組み込まれており、電源も入らない状態となりますのでご注意下さい。
- ・充電式電池(ニカド電池、ニッケル水素電池等)のご使用は、機器の正常な動作を保証出来ませんので、ご使用はお控え下さい。
- ・ご使用頂けます電池は、マンガン乾電池(黒・赤)またはアルカリ乾電池です。

### マイクどうしは、50 cm以上離して使用する

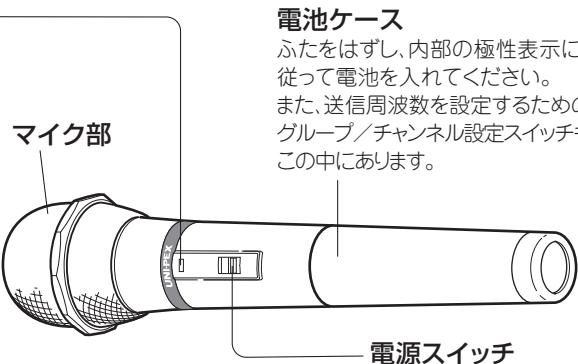
- ・2本以上を50cm以内で同時に使用すると、他の受信機へ混信することがあります。
- ・金属などが、使用しているマイクの前面ネットに接触すると、雑音が発生する場合があります。

# 各部の名称と説明

## 電源表示灯(赤)

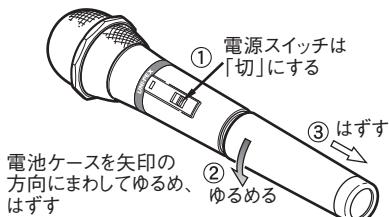
電源スイッチを入れると点灯します。

- 電源表示灯が遅い点滅または消灯する場合は、使用している乾電池が消耗しています。新品の乾電池に交換してください。
- 電源表示灯が早く点滅する場合は、周波数設定が正しくできていないこと(5ページの周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。電源を切り再度周波数設定をしてください。

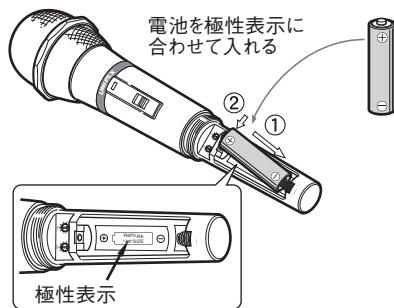


## 乾電池の入れ方

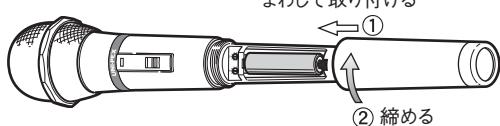
### 1. 電池ケースをはずす



### 2. 電池を入れる



### 3. 電池ケースを閉める



### お願い

電池を交換または、入れるときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。

### ●使用電池についてのご注意

- 高性能乾電池(充電出来ないタイプ)で初期電圧値が1.65Vを越える物はお使い頂けません。製品の内部に保護回路が組み込まれており、電源も入らない状態となりますのでご注意下さい。
- 充電式電池(ニカド電池、ニッケル水素電池等)のご使用は、機器の正常な動作を保証出来ませんので、ご使用はお控え下さい。
- ご使用頂けます電池は、マンガン乾電池(黒・赤)またはアルカリ乾電池です。

### 4. 電源スイッチを入れ 乾電池の確認をする



# 周波数の設定について

## ■グループについて

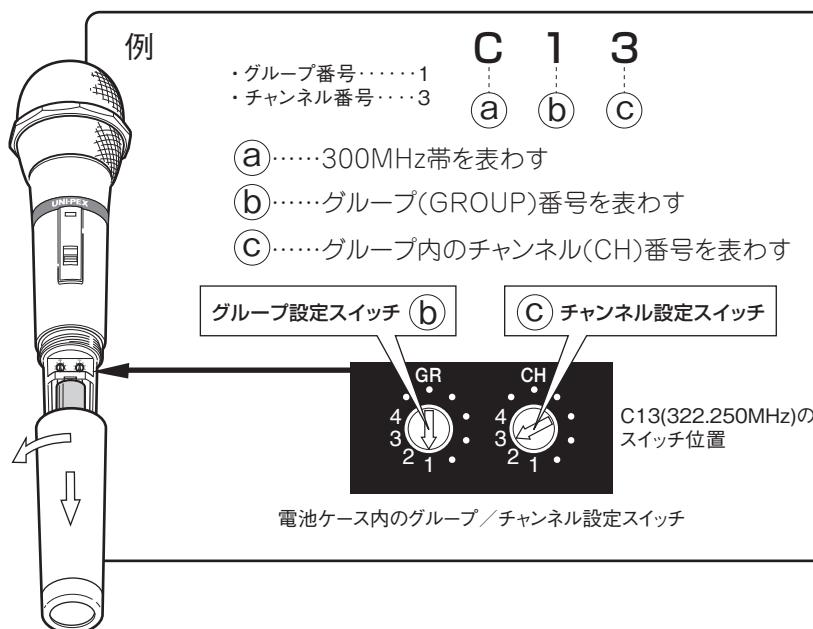
- 同一場所で、複数のマイクを同時に使用する場合は1つのグループに統一します。(グループ1～4の中から1つのグループを選びます。)

- ・グループ1～3の中から1つのグループを選んでシステムを組めば、最大4波まで使用できます。
- ・グループ4は1波使用できます。

## ●受信周波数表

周波数 (MHz)	グループ／チャンネル番号			
	グループ 1	グループ 2	グループ 3	グループ 4
322.025			C31	
322.050	C11			
322.075		C21		
322.100	C12			
322.125		C22		
322.150			C32	
322.250	C13			
322.275		C23		
322.300				C41
322.325			C33	
322.350	C14			
322.375		C24		
322.400			C34	

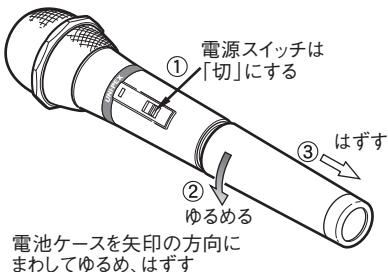
## ■チャンネル呼称について



# 周波数設定のしかた

## ■周波数の設定

### 1. 電池ケースをはずす



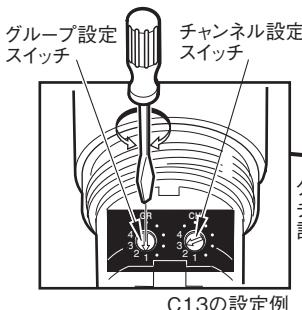
### お願い

周波数を設定するときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。

電池ケースをはずしますと内部にグループ／チャンネル設定スイッチがあります。電源スイッチを必ず「切」にしてから、電池ケースをはずしてください。

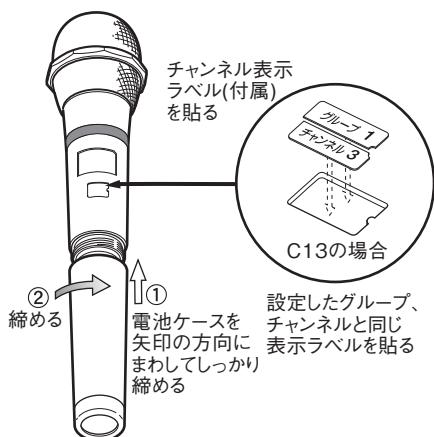
### 2. グループ／チャンネルを設定する

ドライバー(付属)でグループ／チャンネルの設定をする

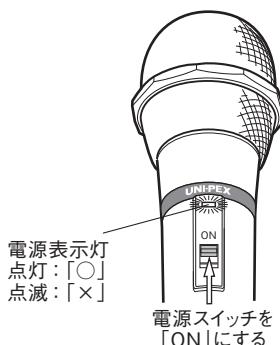


### 3. 電池ケースを閉める

チャンネル表示ラベル(付属)を貼る



### 4. 電源スイッチを入れ、設定を確認する



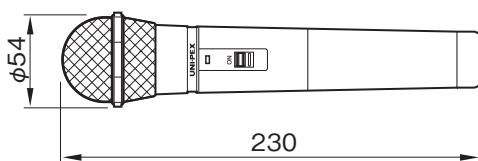
電源スイッチを入れ、電源表示灯が点灯すれば設定したグループ／チャンネルは正常です。電源表示灯が早く点滅する場合は、周波数設定が正しくできていないこと(5ページの受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。電源スイッチを切り再度周波数設定してください。

# 定格

電 波 形 式	30KF3E
送 信 周 波 数	322.025 MHz ~ 322.150 MHz、 322.250 MHz ~ 322.400 MHz (25 kHz間隔 13波) 中1波
発 振 方 式	水晶制御PLLシンセサイザー方式
変 調 方 式	リアクタンス変調
空 中 線 電 力	1 mW
ア ン テ ナ	内蔵アンテナ
変 調 感 度	±2.25 kHzFM (94 dB SPL 1 kHzにて)
使 用 マ イ ク	単一指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
周 波 数 特 性	100 Hz ~ 7 kHz (1 kHz基準 50 $\mu$ s エンファシス)
最 大 入 力 音 压	120 dB SPL
入 力 等 値 雜 音	36 dB SPL以下 (Aカーブ)
使 用 電 池	単3形乾電池 × 1
消 費 電 流	45 mA (1.5Vにて)
電 池 寿 命	約16時間 [マンガン乾電池 R6PU(黒)使用時] (常温連続使用にて) 約32時間 [アルカリ乾電池 LR6使用時] (常温連続使用にて)
使 用 温 度 範 囲	0°C ~ +40°C
寸 法	Φ54(最大径)×230(長さ)
質 量	約180 g (乾電池含む)
外 装	ストーンシルバー色樹脂 (マンセルN4.5近似色)
付 属 品	取扱説明書(保証書付) 1、チャンネル設定用ドライバー 1、 単3形乾電池(テスト用 <sup>※</sup> ) 1、マイクホルダー 1、 ソフトケース 1、チャンネル表示ラベル 1

\*付属の乾電池はテスト用ですので、早めに新品の乾電池と交換することをお勧めします。

## 外観寸法図 (単位:mm)



## サポートのご案内

### ■ 修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。

販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。

①品名 ②品番 ③お買い上げ日 ④故障の状況（できるだけ具体的にお願いします）

### ■ 販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

営業所情報はホームページ  
もしくはQRコードに  
アクセスしてください。  
<http://www.unipex.co.jp>



### ■ その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。

**UNI-PEX** お客様ご相談センター

**0120-56-5245** (通話料無料)

受付時間／9:00～17:00 (土・日・祝日除く)

PHS・携帯電話からのご利用は、  
**072-855-3334** (通話料がかかります)

#### 【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、  
ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。  
個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を  
除き、第三者に提供または開示いたしません。

## ワイヤレスマイク WM-3000A 保証書

製造番号			
保証期間	お買い上げ日 年 月 日より 電子回路部1ヶ年、ケース(外装部)6ヶ月		
お客様	お名前 <b>見本</b> 様 ご住所 電話( ) -		
販売店	店名・住所 印 電話( ) -		

本書は本書記載内容で無料修理を行なうことを保証するものです。  
お買い上げの日から上記期間内に故障が発生した場合は本書を提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

製造元 **日本電音株式会社**  
発売元 **ユニペックス株式会社**

〒573-1132 大阪府枚方市招提田近3-6 TEL(072)855-3334(代)

#### 保証規定

この保証書は日本国内においてのみ有効です。この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

(This warranty is valid only in Japan)

#### 無料修理保証の範囲

- 保証期間内において、取扱説明書などに従った正常な使用状態において故障した場合に無料で修理いたします。
- 修理の際は必ず保証書の提示があること。
- 当保証書の所定項目に必要事項が記入され、故意に字句を訂正していないこと。

#### 無料修理保証の免責範囲

(次のような場合は保証期間内でも有料修理となります。)

- 使用上の誤り及びお取扱いの乱用などによる故障、磨耗。
- 不当な修理改造による故障、損傷。
- 正常なご使用でも、消耗部品の自然消耗、磨耗、劣化によるもの。
- お買上げ後の落下、傷など、お取扱い上に起因するもの。
- 火災、水害、落雷、地震、その他の天災によるもの。また塩害、有毒ガス、異常電圧などが原因の損傷。
- 故障の原因が本製品以外の機器の影響によるもの。
- ⑦常識的に正常な動作状態であるにもかかわらず、修理または部品交換などの要求をされる場合。